「授業のねらい」など

年　　組　　氏名

故郷 深く愛して

杵築市ＰＶに曲提供 南こうせつさん

杵築市のケーブルテレビ「杵築ど～んとテレビ」が制作した市のプロモーションビデオ（ＰＶ）が、６月に開かれた「第15回ベストプロモーション大賞」で準グランプリを受賞した。ＰＶにはフォークシンガー南こうせつさん(73)が作曲した「おかえりの唄」に乗せ、多くの市民が出演している。受賞を受け、南さんに故郷への思いなどを聞いた。

素晴らしい映像

―市のＰＶが準グランプリに輝いた。

「全国的な規模の品評会で、たくさんの作品の中から杵築の動画が評価されてとてもうれしかった。街を明るく前向きにしたいという話を聞き、自分は歌うことしかできないけれど、それでもよければという思いで参加した」

―完成したＰＶを見た感想は。

「素晴らしい映像になっていた。地元の人たちのいい表情を引き出していた。ハッピーな気分になる作品。制作したスタッフと出演してくれた人の頑張りに感謝したい。地元の人にとって今回の受賞は、この街で自然を愛して生きていっていいんだという自信につながると思う」

―２０１９年に発表した「おかえりの唄」が使われた。

「40年以上前に作詞家の星野哲郎先生に頂いた詞。当時はフォークソングやロックが全盛で、反戦歌など写実的なものが多かった。自分もそういった曲の影響を受けた。時代に合わないかなと長年本棚にしまい込んでいたが、デビュー50周年のアルバムを制作する際に見つけ、これはいい詞だと改めて感じた」

「いろんな曲を作ってきたが、街の活性化などを考えるとこの曲がベストだった。今回のような展開になり、星野先生の詞が長い年月を経て生きた。本当に良かった」

「いろんな曲を作ってきたが、街の活性化などを考えるとこの曲がベストだった」と語る南こうせつさん＝杵築市の住吉浜、撮影・江藤成吾

みなみ・こうせつ　１９４９年、大分市竹中出身。大分舞鶴高卒。70年デビュー。71年にグループ「かぐや姫」を結成。「神田川」「妹」などのヒット曲を発表。２０１９年にデビュー50周年を迎えた。杵築市在住。

コロナ経て見つめ直す

悔しさなど経験

―新型コロナウイルスの流行は3年目を迎え、故郷へ帰れない人も多かった。

「久しぶりに親や友人と会ったらお互いに年を取っている。一緒に飲もうとか、将来はしっかり親の面倒を見ようという発想になるのでは。ずっと会えなかった分、愛情が倍になる。コロナを経て生まれ育った場所を客観的に見つめ、深く愛するようになればいい。今回のＰＶはとてもタイムリーだった」

―地元を離れる若者が多い。

「小学生で初めて洋楽を知り、とにかく東京への憧れが強かった。若い人は東京や大阪、ニューヨークでも、とにかく一度都会へ行き、悔しさなどいろいろな経験をしてほしい。その時に田舎の良さに気付く。『おかえりの唄』が響くと思う」

（聞き手・富高萌南実）

杵築市のプロモーションビデオのＱＲコード

大分合同新聞 2022年8月27日（土）朝刊 1面

大分合同新聞
ワークシート

©大分合同新聞 教育目的以外の無断複製・転載および頒布を禁じます。